



2017 AUTOBACS SUPER GT Round5

「FUJI GT 300km RACE」

- 開催日: 公式予選 8月5日(土) / 決勝 8月6日(日)
- 開催地: 富士スピードウェイ 4563m
- 入場者数: 8月5日(土) 21,600人 : 8月6日(日) 33,500人 : 大会総入場者数 : 55,100人

夏休み真っ只中の8月5日6日に第5戦が富士スピードウェイにて行われました。予選 Q1 を川端選手が走り、Q2 進出を狙いましたが、セッティングが合わず 24 位という結果になりました。決勝はスタートドライバーに川端選手を起用し、スタート直後から追いついていき 18 位でピットイン、給油とドライバー交代のみで中山選手も追いついていき、一時は 7 位を走行したがストレートスピードの速い GT3 勢との勝負は苦しく、11 位と入賞まであと一歩のところまでチェッカーを受けました。

●8月5日(土) 公式予選 : 24 位 1' 39.446

□公式練習 天候 : 曇 | コース : ドライ |

気温 / 路面温度 : 開始 25 度 / 29 度、終了 27 度 / 33 度

□公式予選 天候 : 曇り | コース : ドライ |

気温 / 路面温度 Q1 開始時 27℃ / 33℃、Q1 終了時 27℃ / 35℃

Q2 開始時 27℃ / 35℃、Q2 終了時 27℃ / 34℃

第 4 戦の菅生から一週挟み、夏の 3 連戦の 2 戦目が富士スピードウェイにて行われました。第 2 戦の FUJI 500km RACE とは距離が異なり、今回は 300km と他のレースと同じ距離で行われました。86 マザーシャシーとは相性の余りよくないサーキットですが、前戦で見せた速さをここでも発揮し、上位を目指し臨みました。

台風 5 号が近づいてきており、直前まで天気予報がコロコロと変わってきておりましたが、朝は富士山もはっきりと見える晴天でした。しかし、公式練習の始まるころには上空には雲が増えており、気温もあまり上がらない状況でした。

いつも通り、中山選手から乗り込み、持ち込みのセッティングを確認していきました。

車両はアンダー傾向が強く、リアのスタビライザーや車高を変えるなどしてアジャストしていきました。今回のヨコハマタイヤはハードとミディアムハードの 2 種類で予選、決勝に向けて比較を行っていきました。

中山選手が 17 周したところで川端選手に交代し、さらに車両の確認とタイヤの

UP GARAGE

Crooover

true visions

YOKOHAMA

WedsSport

NUTECH

ENDLESS

DAL
DAIWA RACING LABO

INTEC
THE PURSUIT OF PERFECTION

OGURA
CLUTCH



RACING PROJECT
BANDOCH

比較をしました。24 周目にミディアムハードを履き、28 周目に 1'39.670 とベストを更新しました。このタイムが UPGARAGE BANDOCH 86 の公式練習のベストタイムとなりました。川端選手は中山選手と共に事前にシミュレーターで練習をしており、その効果が出てきているようです。GT300 の占有走行では中山選手が予選を想定しアタック練習にでましたが、アタックのタイミングで 52 号車が TGR コーナーでコースオフした為、赤旗が掲示されそのままセッション終了となってしまいました。

上空には黒い雲もありましたが、雨は落ちてこず、曇りの中、14 時 35 分から GT300 の予選 Q1 が始まりました。予想よりも気温が低くなっていた為、開始と共に UPGARAGE BANDOCH 86 は川端選手がステアリングを握りコースインしました。タイヤに熱を入れ徐々にタイムを縮めていき、5 周目には 1'39.665 と 39

秒台を叩き出しますが、Q2 進出の 14 位以内には入れませんでした。なんとか 14 位以内に入るのを目指し、さらにアタックをしていき、1'39.446 とベストラップを更新。しかし、他の車両も次々にタイムを更新し、24 番手で予選を終えることとなりました。

午前中の結果を受け、予選に向けて対策した結果が思うように出ず、タイムが出ませんでした。予選の走りを基にさらに車両を改善し、翌日の決勝は入賞を目指します。

ポールポジションは 55 号車の ARTA BMW M6 GT3、2 位は 7 号車の Studie BMW M6、3 位はグッドスマイル 初音ミク AMG という結果でした。

●8 月 6 日 (日) 決勝 : 11 位

□決勝 天候 : 曇 | コース : ドライ |

気温/路面温度 開始:29 度/36 度> 中盤:29 度/35 度> 終盤:27 度/32 度

曇りがちでしたが、サーキットには強い日差しが差し、前日よりも暑い天気の中、決勝の日を迎えました。

20 分のウォームアップ走行では川端選手から乗り込み、決勝向けのセッティングを確認していきます。

途中、ドライバーチェンジの練習も含め中山選手へ交代しました。中山選手からは「車のバランスはとて面白い！」と決勝へ期待の持てる無線が入りました。

グリッドについている間にどんと曇っていき、気温も 30 度を切り少し涼しくなってきた中、15 時 25 分に静岡県警の 9 台の白バイと 4 台のパトカーを先導にフォーメーションラップがスタートしました。



UP GARAGE

Crooner

true visions

YOKOHAMA 100

WedsSport

NUTEK

ENDLESS

DRL
DAIWA RACING LABO

INTEC
THE PURSUIT OF PERFECTION

OGURA
CLUTCH



RACING PROJECT
BANDOH

スタートは川端選手が担当し、綺麗にスタートしていくが、アドバンコーナーの立ち上がりで 117 号車とダンロップコーナー52 号車に抜かれてしまいますが、コースオフした車両もあり 25 番手でオープニングラップを帰ってきました。しかし、2 周目の TGR コーナーで 52 号車を抜き返し、ダンロップコーナーで順位の落ちてきていた 5 号車も抜き 23 番手と順位を上げていきました。さらに 4 周目の最終コーナーで 117 号車に並び TGR コーナーのブレーキングで一瞬前にでるがトルクのある 117 号車と並び、そのままコカ・コーラコーナー、トヨペット 100R と並走していきます。オーバーテイクポイントのアドバンコーナーで車重の軽いマザーシャシーで



の利点を生かしブレーキング勝負でついに前に出ました。その後もすぐに前に追いついていきダンロップコーナーでうまくイン側のラインを取り 60 号車も抜きました。川端選手からも「60 号車抜いたで！」と無線が入る気合の入りの入りようでした。

その後もさらに 21 号車も TGR コーナーで抜き、ペナルティで下がった車両もいたため、14 周目には 18 番手まで上がってきました。

その後もタイヤの状態は安定していて、18 周目にはタイヤ無交換でも行けるとい無線も入ってきました。



できるだけコース上がクリア状態でラップを刻めるようにと、20 周を終えたところでピットインをしました。ドライバーは中山選手に代わり、給油のみで 16 秒ほどとかなり短時間でピットアウトしていきました。この同じタイミングでピットインしていた 33 号車もよりも前にでることが出来ました。

中山選手に交代後も安定したペースで走り、他車もピットインしだすとどんどんと順位を上げていきます。39 周目には同じくタイヤ無交換でピットアウトした 25 号車が前に入ってきましたが、あまりペースが上がらないようで 43 周目 TGR コーナーでうまく並び、コカ・コーラコーナーには前に出て 7 位まで浮上しました。その後ストレートスピードが 10km/h 近く速い GT3 車両が追いかけてきますが、中山選手は巧みなライン取りで 8 周近く 7 位をキープしますが、ストレートで 88 号車に抜かれてしまいました。

その後もストレート以外ではコーナリングマシンの UPGARAGE BANDOH 86 は距離を空けるが、ストレートで一気に追いつかれてしまい 54 周目に 33 号車、57 周目には 51 号車にも同じ展開で抜かれてしまい 10 位となって



UP GARAGE

Crooover

true visions

YOKOHAMA 100

WedsSport

NUTEC

ENDLESS

DRL
DAIWA RACING LABO

INTEC
THE PURSUIT OF PERFECTION

OGURA
CLUTCH



RACING PROJECT
BANDOCH

しまいました。なんとか入賞圏内で耐えしのぎたいところでしたが、59 周目には 21 号車にストレートで抜かれて 11 位となり、61 周目にチェッカーを受けました。

24 番手と後方からのスタートでしたが、川端選手が序盤で中団まで上がり、タイヤ無交換作戦とその後の中山選手の懸命な走りで一時は入賞圏内の 7 位まで上がりました。しかし、ストレートスピードが 10km/h 近く違う GT3 勢からの猛追には耐えきれず入賞まで一步足りない 11 位という結果でした。なんとか、ポイントを獲得して帰りたいと思い挑んだレースでしたが、残念ながら獲得が出来ませんでした。その分次戦の鈴鹿にはウエイトハンデが軽いまま挑むことが出来ます。昨年はポールポジションを取りながら、セーフティカーの影響で優勝できなかった、昨年分も含め、今度こそ優勝を目指し、8 月 26 日 27 日に行われる最後の鈴鹿 1000km へ臨みたいと思います。



引続きご支援、ご声援宜しく御願ひ致します。

チームランキング：20 位 (12 ポイント)

ドライバーランキング：21 位 (2 ポイント)

中山友貴 選手

「今大会は、予選で後方に沈んでしまった事が大きな敗因です。富士での、パフォーマンスを改善させようと試みた結果、それらが良くなかったのですが、非常に悔しい予選になってしまいました。また、選手権ポイントを獲得できなかったことも本当に残念でした。

この結果をしっかりと分析して今後に生きるデータにし、ベースの底上げをしなければいけないと改めて痛感しました。

次戦の鈴鹿大会は夏場の長いレースになります。昨年も終盤まで良い戦いが出来ていましたので、しっかりとチームとシミュレーションを行い、勝つために出来る限りの良い準備をしてレースに臨みたいと思います。」

川端伸太郎 選手

「前回の菅生では予選 2 位と良い結果でしたが、今回の予選ではフリー走行の不調からアジャストしていったのですが、あまりいい方向にはいかず、24 位とかなり後方からのスタートとなりました。スタートを担当し、6、7 台抜き 18 位まで追いつけました。富士は GT3 がかなり速く、攻略するのは難しかった中うまく抜いていくことが出来たのではないかと思います。早めのタイミングでピットインし、タイヤ無交換で中山選手と替わり、タイヤをうまく持たせていってくれ、一時は 7 位まで順位を上げましたが、やはり GT3 の速さに負けてしまい 11 位フィニッシュと



なりました。とても苦しい中でのレースで学ぶことも多く、次戦の鈴鹿に向けてとても勉強になったレースだったと思います。次の鈴鹿はマザーシャシーも得意ですし、自分自身も課題を克服していき、成長していいレースをしたいと思います。鈴鹿では優勝しか狙っていませんので、みなさんの熱い声援をよろしくをお願いします。」

坂東正敬 総監督

「やはり、マザーシャシーには厳しいサーキットでした。少しでもセッティングでストレートスピードを稼ぐ方向でないと決勝は厳しかったですね。今のGT300はドライバーもタイヤも凄いレベルの高い中で戦っているのもっともっとアイデアを出して望んで戦わないと入賞するのは難しいです。今回の反省を踏まえ、次戦鈴鹿には必勝の体制で望みたいと思います。本当に沢山の応援ありがとうございました。鈴鹿でも応援宜しくをお願いします。」